

## 体験イベント「一日漁師」データに基づく霞ヶ浦における 近年の指定外来生物等の変動

萩原富司、熊谷正裕、諸澤崇裕、奥井登美子（土浦の自然を守る会）

### 1. はじめに

一日漁師は、霞ヶ浦の魚の豊かさや外来魚の多さを知ってもらうための体験イベントである。参加者は、実際に漁船に乗船してもらい定置網漁を見学した後、すべての漁獲物を仕分け、同定、計数、計量する。本イベントは2005年よりほぼ月に一回のペースで継続しており、一回あたり約20名の参加者がある。その内の約半数はリピーターで、残りの半数が新規参加者である。参加者には乗船した際に実際に定置網のトラップ部を引き上げてもらったり、魚に直接触れて仕分け、同定作業を行ってもらう。リピーターの指導で同定、計数、計量作業を正確に実施してもらい、5年間分の魚類データが蓄積された。

### 2. 魚類相の概要と指定外来生物等の経年変動

本イベントで認められた魚種は44種で、我々が過去に霞ヶ浦流域で認めた全魚種56種の約78%に当たる。また毎回の調査で平均17種が認められ、多種多様な魚がみられて参加者の興味は尽きない。外来生物法による指定種の時系列は図1のようになっており、3種の経年変動は明らかではないが、チャンネルキャットフィッシュとブルーギルが多くを占めており、オオクチバスは少ない。タナゴ類の時系列からは、要注意外来生物、オオタナゴとタイリクバラタナゴは国内外来種カネヒラを含む他の国内4種に比べてきわめて（2桁）多く、安定して多数生息している。多くの個体数を占めるこれら外来生物は、霞ヶ浦が外来種のソースとなりうることを示しており、個体数を減らす努力が必要である。

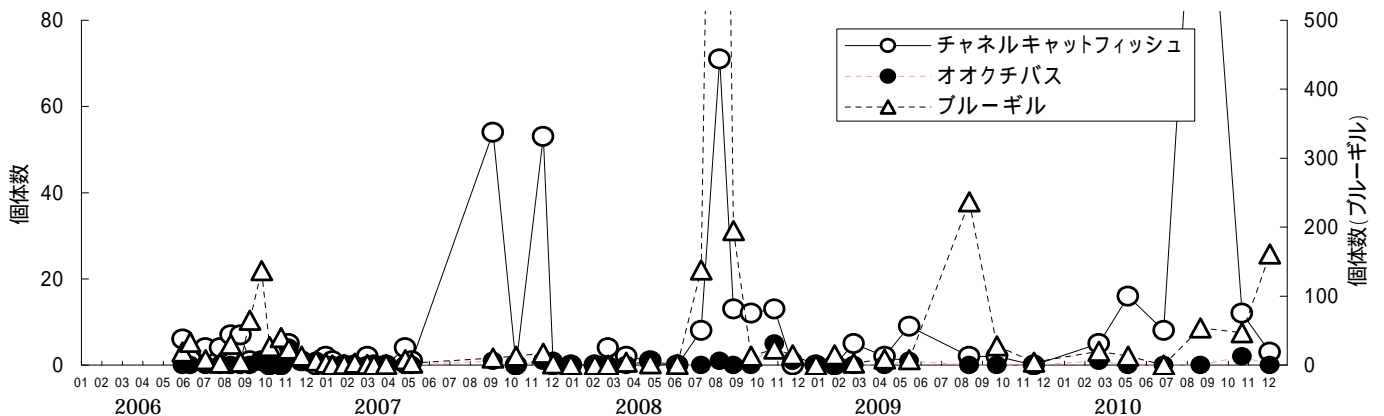


図1 指定外来生物の時系列変化（定置網一ヶ統あたり）

### 3. 体験イベント「一日漁師」の意義

イベント参加者は正確な同定と計数により、霞ヶ浦魚類に占める外来種の多さを直接体験することになる。さらに調査後、漁師宅のご厚意により毎回外来種定食（+在来魚種料理）を食べ霞ヶ浦の豊かさを体験している。

このようなイベントは、外来種という時としてネガティブなイメージを、魚を学習して食べるというポジティブなイメージで体験できるものとする。我々は今後もこのイベントを継続し、魚類についての最新情報や現状を一般市民に伝え、参加者が積極的に生物多様性保全の行動に関わることに繋げたい。